『JJYU パース・セーリング研修で学んだこと』

B&G 高松海洋クラブ 森下結月

■いろいろな国の人たちが集まるオーストラリア

私がオーストラリアに行って一番驚いたことは、異国の国籍を持った人がたくさん住んでいることです。日本では、たいていの方が日本国籍ですが、オーストラリアでは、東南アジアや、東アジア、ヨーロッパなど、他国から移住している人が多いです。ヨットクラブでできた友達も、たいていがアジア系の子でした。そして、日本に帰ってから、多国籍の人がたくさんいることによるメリットとデメリットについて考えました。

メリットは、たくさんの方の文化が集まることです。

街を歩いているだけでも、中華料理屋や、日本料理屋、インド料理屋などたくさんの方の国の店がありました。私のホストファミリーも、毎週日本料理のカレーを食べると言っていました。

デメリットは、差別や偏見などで起こる、不平等の拡大です。今でもまだ、国籍の違う人に対して偏見を抱いている人がたくさんいるなかで、他国の人を受け入れることはできないという人もたくさんいるのではないかと思います。私はどちらかというところと多国籍文化については賛成です。意見としては、他国の人との交流が盛んになることで自分の視野が広がり、その文化を使って、たくさんの方の意見が出ると思うからです。

■研修中に悔しかったこと

今回のセーリング研修を通して実感した私のこれからの課題は、英語力をもっと高めることです。初日から言語の壁にぶつかり、友達との会話も、言われたことを理解することはできましたが、言いたいことを伝えることができず、とても悔しい思いをしました。だから、これからは自分の英語力を、海外留学ができるほどまでアップさせて、次こそは悔しい思いがないようにしたいです。

■セーリング文化の違いを実感

今回の研修先のロイヤルパースヨットクラブで感じたことは、日本のヨットクラブとの文化の違いです。日本のヨットクラブは、ヨットハーバーの中にあるというのが普通ですが、オーストラリアのヨットクラブは、ヨットクラブがヨットハーバーを持っていて、クラブメンバーはそこを拠点に練習していました。

大きな違いはもう一つあり、クラブハウスの中には必ずバーがあることです。そのバーは、レースが終わった後、セーラーたちの交友の場となっていました。やはり、日本とオーストラリアではヨットクラブの文化や価値観が大きく違うということが

はっきりとわかりました。

■レースで学んだこと

レースでは、日本での練習がいかせたところもあれば、いかせず、だめだったこともありました。その中でも一番勉強になったことは、スタートの戦略についてです。技術的な差はそれほどないため、スタートの良し悪しが、フィニッシュ順位に大きく影響すると感じました。

レース初日は混雑しているところでスタートし、集団に飲み込まれて良い順位が取れなかったけど、2日目は、少し空いたところで第一線から出るようにしたら、トップに近い順位でフィニッシュすることができました。

なので、有利なサイドからスタートすることも大切だけど、ライン第一線から出ることを最優先しなければいけないことがはっきりとしたレースになりました。

■温かく迎えてくれたホームステイ

私がこの研修で一番心配していたことはホームステイのことです。初めて一人でホームステイしたので、初日は本当に緊張していてガチガチになりました。それでも、温かく私を迎えてくれたホストファミリーのおかげで、恥ずかしがって何もしゃべらないより、たくさんしゃべって、もっと英語力をつけようという気持ちになれました。

英語が分からなくて困ったことはたくさんあったけれど、分からないなりに喋れたので、そこは後悔していません。でも、次にみんなに会ったときは、今回言えなかったことを、全部言えるようになりたいです。

■セーリング研修は自分にとってどのようなものになったか

今回の研修で私は、これからの進路についての視野が広がりました。パースに行く前までは、海外留学などには興味がなく、英会話もできなくても大丈夫だと思っていましたが、今回の研修を通して海外留学にすごく興味を持ち、英会話教室にも通い始めました。

セーリングも、もっとうまくなって、次は海外の選手にもっと食らいついていけるようになるということを1年の目標にしました。

今回の研修は私にとってすごくいい経験になりました。ありがとうございました。